地域と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力をはぐくむ

今なぜ「社会総がかりではぐくむ教育」が重要なのか？

近年、少子高齢化やグローバル化、情報化の中で子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、学校の抱える課題は複雑化・多様化している。また、地域における教育力の低下や保護者同士のつながりの希薄化といった問題もある。そのような状況の中で、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校・家庭・地域がお互いに連携・協働し、「社会総がかりではぐくむ教育」を実現することがますます重要になっている。

期待される3つの効果

学校教育の充実

◎教育の質の向上
◎児童生徒の多様な活動・経験
◎教職員の資質能力の向上

子どもの成長

◎自己肯定感や他人を思いやる心の育ち
◎主体的に学びに向かう力・学力の向上
◎地域への愛着・地域の担い手としての自覚

地域の活性化

◎地域住民の生きがいづくり・自己実現
◎学校を中心としたネットワークの形成
◎災害等非常時の安全確保

社会に開かれた教育課程

学校

＜課題＞
いじめ・不登校
学力充実
働き方改革　等

教職員　校内連携　地域連携を担当する教職員
校長

説明 ⇩　承認 ⇧ 意見

学校運営協議会
地域住民・保護者等の参画

コミュニティ・スクール

目標の共有

「連携・協働」

家庭

地域

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）
学校と地域の連絡・調整やボランティアの確保、活動の企画を行う方

連絡・調整 ⇕ 人材確保

地域住民　PTA　自治会　スポーツ団体
社会教育関係団体　企業　NPO　等

＜課題＞
少子高齢化
家庭・地域の教育力低下　等

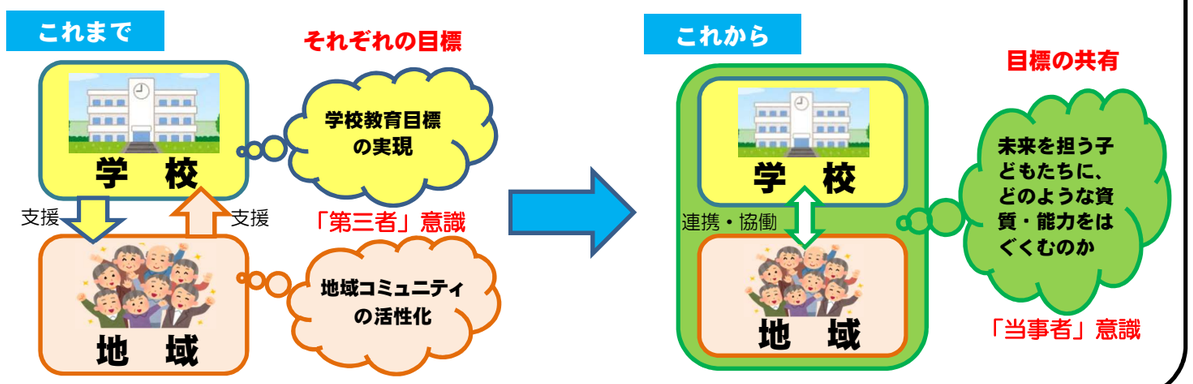
地域学校協働本部

地域学校協働活動とは･･･広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のこと

社会に開かれた教育課程の実現に向けて　「支援」から「連携・協働」へ

新学習指導要領では、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、地域と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力をはぐくむ社会に開かれた教育課程の実現がクローズ・アップされている。

学校・地域の双方が「当事者」意識を持ち、目標を共有して活動することが重要となってくる。



個別の取組をつなぐ　「個別」から「総合化・ネットワーク化」へ

中丹教育局管内でも、あいさつ・見守り運動や学習支援、読み聞かせボランティア等、各校・地域の実態に応じて様々な活動が進められている。

地域住民や団体同士が「緩やかなネットワーク」を形成することで、地域が主体となった、継続的・安定的な活動へとつながっていく。

あいさつ・見守り運動

栽培活動支援

学習支援

京のまなび教室